

愛の星

2023・第2号(通算171号) 2024年3月31日

社会福祉法人 東京聖ピンセンシオ・ア・パウロ会
愛星保育園

〒108-0074 港区高輪1-27-40
TEL. 03-3441-5410
FAX. 03-3441-5436
E-mail aiseihoikuen@fancy.ocn.ne.jp
<http://www.aisei-hoikuen.com>



園の花(すみれ)



今年度はコロナが5類になったことで、少しずつ以前の生活や取り組みに戻せるよう考えると共に、3月から12月まで約9か月の間、園舎内大規模改修工事が行われ、園舎のどこかで工事が行われているという環境の中での保育でした。工事の様子に興味津津の子がいる反面、ドリルの音に驚いて泣く子もいたため施工業者と密な連携を取りながら安全な保育を優先に心掛けました。

今年度は「やりたいな！わくわく！」をテーマに掲げていたので、工事の間でも、工事だからこそできる“わくわく”する取り組みをみつけ、子ども達が自分から“やりたいな”と主体的に遊びを展開できるように工夫しました。

7月、2階の「みんなの部屋」を取り壊すことになり、この時にしかできないことはないかと考え、部屋中の壁に3歳児が手足、全身を使ってペイントをしました。普段、壁に絵を描く経験がない為、最初はちょっぴり戸惑っていた子ども達でしたが、保育者が手で塗り始めるとその様子を見ながら最初は手指で、その内手のひらでと少しずつダイナミックに塗り始め、気が付くとみんな全身絵の具だらけになりながら満面の笑みになっていました。壁のペイントは壊すと無くなってしまいますので、思い出として残るように壁に貼った模造紙にも一緒にペイントをして、それを子ども達のアイデアで大きなスイカの壁面装飾にして楽しみました。

乳児組は、3階の保育室を使用している夏の間、ハイハイでの室内階段の昇り降りをいつも以上に経験しました。最初は登ることは楽しいのですが、後ろ向きにハイハイで降りることに躊躇する姿が見られました。保育者が手を添えながら「ここに足を置いて」「今度はここに手だよ」と伝えていくと少しずつ体の使い方を覚え、恐ろしかった下りも「見て。できるよ」とちょっと得意げな表情で降りることができるようになり、その経験から体幹がしっかりしたこともあり、秋になって避難車で散歩に出掛けようと声を掛けると首を横に振って歩きたいことを主張し、例年以上に長い距離の散歩に積極的に歩いて出かけるようになりました。

今年度は、工事という特殊で安定しない環境ということもあり保育者が“わくわく”を見つけて提供し、それを子ども達が“やりたいな”に繋げていくことが多かったように感じます。今後は子ども達が主体的に“わくわく”を見つけ、“やりたいな”に繋がられるように考えていきたいと思います。

保護者の皆様には工事をしながらの保育に対し、ご不安・ご迷惑をおかけしたことと思います。しかし「新しくなるの楽しみですね」、工事が終了した場所を見て「明るくなりましたね」「広くなったように感じます」等嬉しい、前向きな言葉をたくさん頂きました。子ども達が安心してこの1年間を過ごすことができたのは、保護者の皆様が園を信頼してくださったからだと思います。園の保育・運営に関してご理解・ご協力を頂きありがとうございました。

今後も一人一人を大切に、職員一同力を合わせ新しい環境で子ども達がわくわくできるような保育の提供を考え、より良い「愛星保育園」の保育を作っていくよう努めてまいります。

園長 村岡 恵美子





ゆり組 (0歳児)



今年度のゆり組は4月当初、過去に珍しい5名全員が男の子ということで、逞しい男の子たちになってほしいという思いで『マッスルスーパーボーイズ』というテーマを掲げました。途中から女の子が入園した事で『マッスルスーパーベイベーズ』と名前を変更し、日々たくさん体を動かして、体幹づくり、体力づくりをしてきました。

『マッスルトレーニング』と題して日々行っていたところ、月齢差があったため、それぞれにあった活動をしていけるように、高月齢児の歩行が安定したのを機に低月齢児と活動を分けました。高月齢児は固定遊具のある公園に散歩へ出掛け、高い段差を登って滑り台を滑ったり、ロッククライミングを登って腕と足など様々な体の部分を動かしました。低月齢児は、広い芝生の空間で四つ這いでの探索を沢山行って体幹を鍛えてきました。掘まり立ちも始まると、自分で掘まり立ちしやすいところを見つけ、そこから、伝い歩きをしようと頑張る姿がありました。室内でも沢山体を動かして遊べるように、まずはクッションアスレチックを導入し、上り下りや潜るといった動きが普通の遊びの中で自然に行える環境を作りました。また、マットの山や巧技台の梯子やビーム（平均台）で上り下りや跨ぐ、平均台をしてバランス感覚を養えるようにしたり、鉄棒のぶら下がりも繰り返し行う事で全員がぶら下がるようになりました。

愛着関係のある保育者が側にいることで、安心して「ちょっと難しい」ことにも挑戦をしてきた子ども達。この1年で発達にあった動きをたくさん行い、心も体も逞しく成長しました。また、遊びの中で難しいことに挑戦する気持ちの芽生えから、身の回りの事に繋がり、着脱面や食事面でも自分でやってみようとする姿が見られるようになってきました。今後も「先生が見ていてくれるから大丈夫」「安心して挑戦してみよう」と思える関係を作り、子ども達の成長に関わっていきたいと思っています。



鉄棒のぶら下がり



クッションアスレチック



マットの山登り



石段や岩、遊具の上り下り



木製トンネル登り



ボールでバランス

体をたくさん
動かしたよ！
(マッスルトレーニング)



四つ這いや歩行での探索活動



縁石渡り





もも組(1歳児)



「自分で!」「私も!僕も!」と保育者に伝える事が多く、自分でやりたい、やってみたいという思いが大きく育まれる1歳児。保育者が思いを十分に受け止め、「やってごらん」「わかっているよ」「大丈夫だよ」と認める言葉掛けをしてきた事で安心して気持ちを切り替えて活動に取り組む姿がみられました。

“年上児と友達と、一緒に嬉しい、楽しい”という姿が早くに見られていた今年度の1歳児。「なぜだろう?」と理由を考えた時、兄弟のいる子が多かったり、休みの日に地域のセンターに出掛け、地域の方やご近所、異年齢との交流をしているご家庭が多いからではないかと考えました。ご家庭での関わりは園での友だちへの興味にも広がっており、例年より異年齢児との交流の時間を多く取り入れる計画を立てることで、年上児の真似をしたりままごと遊びや固定遊具で遊ぶ姿が早い段階で見られました。

身の回りのできる事が増えたり、他児との言葉のやり取りを楽しむ中で、「自分で出来た!見て!」「もう一回やってみる!」という姿も早くから見られ、自信をもって自分の思いや行動を生活の中で主張できるよう関わってきた事で、「〇〇がしたい」と言ったり、「まだ遊びたかった」と自分の思いを伝えるまで成長しました。これからも様々な表現方法で“伝えたい”思いを受け止め、その思いに保育者が応えていき、子ども達の成長する力を信じて背中を押していきたいと思います。



自分の居場所はここ!と保育者との信頼関係を基盤とし、伸び伸び過ごしてきました!

「これなに?あれなに?」と様々な事に興味関心を持ち、じっと見たり触れたり匂いを嗅いだり、興味関心を深めてきました!



自分で出来る事が増え、出来る事は「自分で!」と主張する姿も見られるようになりました!



「先生と!」よりも「友達と!」といった姿が多く見られるようになり、一緒にワクワク・ドキドキを重ねてもっと友達が好きになりました!





つくし組(2歳児)



今年度は、「believe」をテーマに、保育者との信頼関係を深め、その保育者の見守りのもと、自分の力を信じて、身の回りのことを意欲的に行ったり様々な遊びに挑戦することが出来るように関わってきました。

友達のことが大好きで、一緒に遊びたい思いがある一方、関わり方が分からなかったり、自分のイメージを伝えることや相手が自分の思いと異なることをしたい時に受け入れることが難しく、泣いたり怒ったりする姿がありました。保育者が仲立ちとなり、自分の思いを伝えたり、相手の思いを少しずつ知りながら、解決策を保育者と一緒に考える経験を積み重ねていくことで、気持ちの折り合いの付け方を知ったり、友達との関係が深まり、子ども同士でイメージを共有し、時には解決策を考えながら、ごっこ遊びや絵本の再現遊びなどを楽しんでいます。また、友達が新しい固定遊具などを楽しむ姿を見て刺激を受け、少し難しいけれどやってみようとする姿、そして、“出来た”という喜びが更なる自信になっています。子ども同士でもやり方を教え合ったり、達成した喜びに共感する姿があり、心も大きく成長しました。



一人ひとりが安心して園生活を送り、十分に自己発揮をしたり葛藤をしながら自立の芽生えが育つ。



五感を使って季節を感じたり、全身を使って遊び、心身ともに健康に過ごす。



「believe」



保育者を仲立ちとし、友だちとぶつかったり、相手の思いを知りながら、友だちと一緒に遊ぶ楽しさを感じる。



安心できる保育者の見守りのもと、身の回りのことを意欲的に行う。